

総務 経済 常任委員会

安全性を最優先に、 効率的かつ適正な公金管理を

委員長 堀越真由子 副委員長 峯岸敬一 委員 嶋田由紀子・羽鳥光博・備前島久仁子・月田均

●公金の安全性と収益性の両立

公金とは国や地方公共団体が所有するお金のことである。税金や施設の使用料等(歳入)、工事請負代金や物品購入代金等(歳出)など、行政が公共の目的を達成するために使うものである。公金は町民の大切な財産であり、その管理は地方自治法等の規定に基づき、最も安全かつ有利な方法で行う必要がある。

●公金の運用

公金の運用については、的確な収支予測により、日々の支払いに必要な資金を確保しながら、資金の有効活用が図られている。年度内の支払準備金は普通預金・定期預金(普通預金に比べて金利が高く、収益性が高い)等を中心に管理されており、町の貯金である「基金」は、定期預金のほか、債券による運用も行われている。

●安全な公金管理のために「危機管理」

玉村町が取引を行っている金融機関の経営状況が良好であること、また毎年度実施する

定期検査等により、町の公金が適正に取り扱われていることを、把握するよう努めていることであった。

現状と今後の課題

の点 当委員会は、公金管理について会計課から説明を受け、分類・管理・運用・金融機関選定・債券運用・危機管理等の実態を確認した。

委員からは、誤振込防止や管理規程の適正運用、金融機関との連携強化の必要性が指摘され、また金利上昇を踏まえ、安全性を確保しつつ収益性を考慮した運用方法の検討を続けるべきとの意見が出された。

さらに、住民サービスの充実と将来に備えた資金確保のバランスをどう取るかが難しいとの認識も共有された。当委員会は、公金管理体制の徹底と誤振込防止、安全性と収益性の両立、住民サービスと財政健全化の調和を重視し、今後も点検・改善及び運用方針の検討を継続していくことを期待する。

花火大会について

財源とバランスの取れた花火大会の構築に向けて

花火大会の開催経費は人件費や物価の高騰などの影響により、年々増加している。ふるさと創生基金の状況や予算に占める花火大会の経費割合等を鑑みると、現在と同規模の大会を開催することは難しい状況である。

令和9年度は町制施行70周年である。「記念大会として盛大に開催するためにも令和8年度は開催を見送り、2年後の開催に向けて財源の確保に努め、それ以降は無理のない範囲で継続方針の検討を進めていきたい」とのことである。

財源確保を踏まえた花火大会の在り方

の点 今回、花火大会について調査を行い、経済産業課からは人件費や物価高騰により開催経費が増加し、町財政への負担が大きくなっている現状や、財源としていえるふるさと創生基金が2年後には枯渇する見込みであることが説明された。

当委員会としては、花火大会が町民の心のつながりを育む重要な行事であることを確認しつつ、財政や他施策への影響を踏まえ、無理のない範囲で継続方針を検討し、町民の理解と協力を得ながら大会の意義を守る努力を期待する。

民生 文教 常任委員会

玉村町の公共交通再編事業の 現状と課題

委員長 松本幸喜 副委員長 井上景子 委員 川端悟・笛木美登利・高橋茂樹・浅見武志

●町が進める公共交通再編事業

公共交通の再編事業は四つの柱で構成されている。

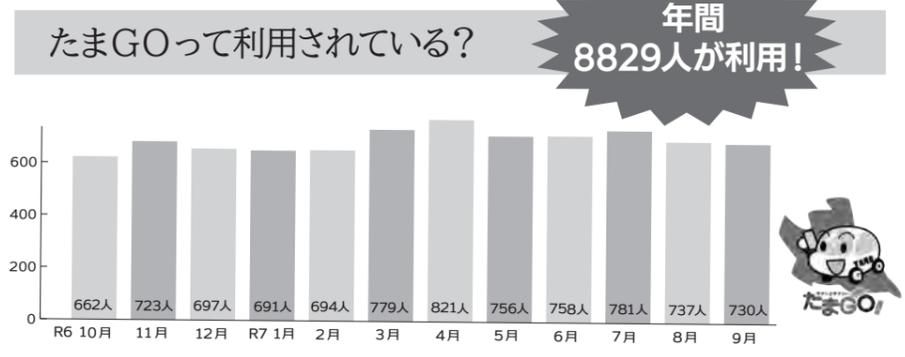
- ① 町内たまりん四路線の統合とデマンド化
- ② 高崎・伊勢崎両直行使のデマンド化
- ③ デマンド交通による町外アクセスの向上
- ④ 周辺駅へのバス路線強化(通学時間帯のみ)

現在は、これらの再編事業の内、町内たまりん四路線の統合とデマンド化が行われたところであり、残りの3点については今後も継続的に取り組まれることになっている。

●たまGOの成果

たまりんの年間利用者数が約7000人(学生の利用者数を除く)だったのに対し、たまGOは

◆たまGOの年間利用数 [月別(乗客数)]



8829人(学生は別途輸送)で、順調に乗客数を伸ばしている。また、経費においても、たまりんが約3000万円に対し、たまGOが約2500万円(利用料を含む)で、経費的にみても約500万円程抑えられている。

利用目的では、買い物や通院が多く、路線バスに乗り換えるための利用も見受けられる。

たまGOの利用者アンケートによると、72%の方が「大変満足」「どちらかという満足」と答えており、デマンド方式の利便性の高さがうかがえる結果となった。

●たまGOの問題点

- ① 午前時間帯に利用者が集中し、午後時間帯に空きがみられる。
- ② 土日の利用者が少ない。

潜在需要を利用につなぐ

- ③ 予約方法の周知が不十分で、一部の利用者に戸惑いが見られる。
- ④ 高齢者用の交通機関とのイメージが強く、小中学生を含む誰もが利用できる公共交通であることとの認識が薄い。

の点 一乗車あたりの経費を見ると、単純計算で一人一乗車2800円ほどかかっている。町内の移動であることを考えるとやや高額である。また、たまGOの予約システム登録者数が800件を超え、潜在的な需要は大きいと思われる。

以上のことから、利用者数のさらなる確保のため、幅広い年齢層に向けた働きかけが望まれる。



玉村町 HP たまGO